

# 県も、「資力に関係なく、真に救助が必要な人を救助」の見解 県作成の「災害救助法に関するQ&A」は修正を示唆



県議会 厚生環境常任委員会でこのほど災害救助法運用についての議論が行われ、厚生労働省と同じく、新潟県も「真に切迫して救助が必要であれ

ば、資力のあるなしに関係なく救助されるべき」だと考えていることを明らかにしました。これは、日本共産党の竹島県議の質問に答えたものです。

委員会の中で竹島県議は、「（日本共産党の）井上参院議員が2月27日、災害救助法について国会で質問し、豪雪それ自体が災害であることを確認するとともに、災害救助法での支援については、資力の有無にかかわらず、真に救助の必要がある方に対して、災害救助法による住宅の除雪を行うことができるということを確認した。5月31日の、平成24年度災害救助担当者全国会議で配布された文書でも、『資力の有無にかかわらず、同法による住宅の除雪を行うことができる取り扱いとしているので、ご留意願いたい』と明確に書かれている。そのう

えで、改めて管内市町村への周知徹底をお願いすると書かれている。県も同様の認識ということを確認したい」と質問しました。  
これに対して答弁に立った細貝防災企画課長は、「災害救助法の救助においては、災害によつて住民の生命、身体、これに危険が及ぶ恐れがあつて、現に救助が必要という方を救助するというのが大原則だと考えている。（中略）政府の答弁にある通り、現に、真にそこが必要という方が、あなたは資力があるからだめというわけにはまいらないので、当然、真に切迫して救助が必要であれば救助されるべきと考えているので、政府答弁の認識ということだ」と答えました。

また、竹島県議が、「管内市町村への周知徹底を一刻も早くしていただきたい」と求めたことに対して、細貝課長は、「6月14日に担当者会議を開催した折に、全国会議の関連部分を抜粋して、資料として提示した。さらに今後



お盆前に懐かしいものを見せてもらいました。子どもの頃、わが家でも使っていた蚊帳です。この蚊帳があったから、蚊に刺されることはなかったけれども、暑くて眠れなかった記憶が残っています。写真は吉川区国田にて11日、撮影。

は、県が持つているQ&A、取り扱いの部分、そこらへんにもこの考え方は明確にすべきと考えているので、そうした作業をやった上で、説明会を開催させていただく」とのべました。これは、私たちがこれまで県に求めてきた「災害救助法適用に関するQ&A」の修正を示唆したものと受けとめました。今後の動きを注視していきたいと思えます。（写真は大島区で1月撮影）



【三夜祭り】お盆を迎え、市内各地で踊りが行われています。写真は吉川観光協会が取り組んだ三夜祭りの様子です。私も苦手な踊りに挑戦してみました。14日、スカイトピア遊ランドで。

## 市民のみなさんの意見をお聴きする会を開催します

8月21日（火）午後6時半から

市民プラザ第1会議室

テーマは（仮称）厚生産業会館

8月28日（火）午後7時から

安塚コミュニティプラザ

テーマは総合事務所産建グループ集約

事前申し込み不要。参加費は必要ありません。ぜひお出かけを！

主催は日本共産党議員団です

橋爪のりかずの  
市政レポート

NO 1566  
2012.8.19

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪法一  
Tel 025-548-3628 (有線) 4867  
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp  
URL http://www.hose1.jp/

# 春よ来い 第二一六回 納涼盆踊り

ひと山越えると盆踊りも違うものだ。大島区田麦の盆踊り大会をみて、そう思いました。私がこれまでみてきた盆踊りでは、「十三夜」を中心に、「平成音頭」とか「佐渡おけき」などいくつも踊りますが、ここでの踊りは「シヨングイ節」ただ一つ、これを約一時間、延々と踊り続けるのです。

お盆の一日、田麦観音堂前広場で行われた盆踊り大会は午後八時頃から始まりました。心配された雨も上がり、広場の中央にある櫓（やぐら）の上に太鼓があげられると、久雄さんと信子さんが向かい合って太鼓をたたき続けます。たたく二人の息はぴったりです。広場には最初、町内会の役員さんなど数人しかいなかったのに、太鼓の音で吸い寄せられるようにして家々から一人、二人と出てきます。寄せ太鼓の音が聞こえてくるとそわそわしてくるんですね。

太鼓の櫓は木造で四角いものとなっています。これを捲くようにして留められた白い布には、「シヨングイ節」の文句が毛筆できれいに書かれていました。「シヨングイ、シヨングイヤー」で始まる唄は農村の暮らしのなかで歌い続けられてきたものです。とはいえ、私にとっては初めてお目にかかる唄です。「十三夜」のような雰囲気は踊りだろうと想像していたものの、どんな唄と踊りなのか興味津津でした。

鉢巻き姿の音頭とりのひとり、七郎さんがマイクを持つと、すぐに踊りが始まりました。音頭とりはこの日は勝義さんと二人。二人の頭の中には歌う文句が刷り込まれているのでしよう、合の手を入れる人と一緒にゆっくりと、櫓の周りを歩きながら独特の節回しで歌い続けます。

「山には木の数 草の数」

「ヨイヤナー、ヨイコラセー」

「里では田の数 畔の数」

「ハー、アリヤサ、ヨイヤサト」

「鯖石川には石の数」

「ヨイヤナー、ヨイトサ」

唄は一節ごとに「ヨイヤナー、ヨイコラセー」などの合いの手が入るので、ずいぶん長く感じました。でも一節ごとに、歌われている情景が目には浮かびます。

踊りを楽しむ人たちの数は時間の経過とともに徐々に増え、踊りが終わりを迎える頃には一〇〇人以上に膨れ上がりました。団扇を腰の帯にさして踊る人、子どもの手をとって教えながら踊る人がいます。小さな子どものなかには踊りの輪の周りを駆け巡る子もいました。踊りの輪の中には地元に住む人ももちろんのこと、旅から戻ってきている人、よそから来ている親戚の人も入っています。どこに住んでいるかが、大人も子どももみんなが一緒になって踊る、いいもんですね。

盆踊り大会の最後はお楽しみ抽選会です。景品にはバーベキューコンロや高級座椅子などが用意されていました。ここで、思わぬ出来事が起きました。一等賞を当てた人が「景品は地元の人へあげて」と辞退されたのです。この人は東京在住で、「こしみず」（屋号）の親戚の人でした。やさしい気配りにみんなは拍手を送りました。

盆踊りは故郷に暮らすもの、暮らしていた者などが一緒に過ぎゆく夏を楽しみ、英気を養う場です。広場に人のやさしさが余韻となって残っているなか、宮本屋の近くの草むらから秋の虫たちの鳴き声が聞こえてきました。夏はもうすぐ終わりです。

## 上下浜、長峰池などでロケ、映画『シグナル』

なんともいえない不思議な感覚、そして感動でした。映画、『シグナル』のことです。ロケ地として柿崎区の上下浜、吉川区の長峰池など上越市内のいろんな場所が使われているということを知り、一度は観て

おきたい、そう思った作品です。映画は古い映画館を中心舞台として繰り広げられた映画技師・ルカとアルバイト青年・宮瀬恵介の恋をドラマチックに描いた作品です。

映画の中心舞台となったのは築100年を超えた高田世界館。

**上越地域各消防署における空間放射線量測定結果**（数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです）

	8月8日（水）	8月15日（水）
上越南消防署	0.036	0.040
上越北消防署	0.050	0.047
新井消防署	0.050	0.047
頸北消防署	0.053	0.040
頸南消防署	0.047	0.047
東頸消防署	0.047	0.047
高士分遣所	0.050	0.047
名立分遣所	0.040	0.043

11日からこの世界館で『シグナル』が上映されています。12日に観てきたのですが、私が座った席は劇中、アルバイト青年・宮瀬恵介が映画のなかで座っていた席でした。映画には自分が実際にいる建物が出てきて、高田本町からの通路、入り口、受付、二階への階段、正面舞台、座席などが映し出されて登場します。私が座っていた席は正面のカメラから撮られていました。それに登場人物のなかには、当日、受付をやっていたSさんや市役所職員のOさんの姿もありました。なんだか自分



も映画のなかにいるような不思議な感覚になりました。

物語は最後が一気に盛り上がりました。主人公の映画技師、ルカをストーカーとなった元交際相手から体をはって守り抜く恵介。ストーカーによる恐怖によって、すっかり映画館に閉じこもりとなったルカを最後は映画館の外に連れ出すことに成功します。そして最後、川沿いの広場での野外上映会の開催、これには心を揺さぶられました。

『シグナル』の上映は高田世界館で8月26日まで。午前10時、午後2時、同7時の1日3回上映。ただし、20~24日は午後からの2回のみ。問い合わせは電話090-2562-4475岸田さん